

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)(案)

令和7年12月24日

協議会名： 玉野市地域公共交通会議

評価対象事業名： 地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
玉野市地域公共交通会議	①玉原・和田・日比エリア ②荘内・八浜エリア ③山田・東児エリア ④田井・中央(宇野・築港)・玉 エリア	シーバスやシータクの新規利用 者確保に向け、複雑化する地域 公共交通(シーバス・シータク) の利用方法について、わかりや すく丁寧に出前講座等で周知を 図り、収支率の改善を目指し た。	A 計画通り事業は適切に実施 された。	・乗合タクシー(シータク)の利用 者数について、目標値35,000人 ／年に対して、33,653人／年で あった。 シータクの利用者数について は、昨年度と比較してほぼ横ば いであり、シーバス路線が充実し ていく中で利用者数を維持でき ているものの、利用者数全体で は、目標達成に至っていない。 ・市内の公共施設や病院への移 動手段がなく不便を感じている 市民の割合については、目標値 8.6%以下に対して8.3%(令和6 年度市民意識調査)であり、目標 を達成した。 ・外出する頻度が週1日以下の 高齢者(65歳以上)の割合につ いては、目標達成には至らな かったものの、目標値11.7%以 下に対し11.8%(令和6年度市民 意識調査)と、あと一歩であった。 ・収支率については、公共交通 全体では15.9%と多少改善してい るが、乗合タクシーのみでは 12.4%とほぼ横ばいとなっており、 どちらも目標達成には至ってい ない。 ・財政負担額については、公共 交通全体では76,659千円と多少 改善しているが、乗合タクシーの みでは38,013千円と昨年度より 増加しており、公共交通全体とし ては減っているものの、乗合タク シーが増加している。	・出前講座、各種アンケート等 で得られた市民意見の掘り起 こしを行い、利用方法のわかり にくさから利用していない方が いるという課題に対して、DXの 活用等簡単でわかりやすく説 明することで、利用者の増加に 繋げていく。 ・利用者の直接の意見を反映さ せるため、出前講座やバス教 室等を事業者とともにに行い、よ り利便性の高いダイヤ、ルート に改善し、利用者を増やすと ともに収支率の改善にも繋げて いく。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和7年12月24日

協議会名：	玉野市地域公共交通会議
評価対象事業名：	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	玉野市では、「人と人をつなぎ、“これからのたまののまち”を支え続ける地域公共交通 ～みんなで使って未来に残そう～」という基本理念のもと、「これからのまちづくりとくらしを支える持続可能な地域公共交通」、「便利で誰でも使える・使いたくなる地域公共交通」、「みんなで共に考え・使い・支える地域公共交通」の3つの基本方針を設定し、これらの基本方針に基づき立てられた目標の達成を目指している。 利用者減少や担い手が不足する中で、誰もが便利に使い、また使いたくなるような魅力ある持続可能な公共交通を目指しつつ、行政、交通事業者、市民といった公共交通の関わる者の中で、一部の者にとって過度な負担とならないよう、みんなで支える体制構築に向けて取り組むものである。

令和7年度 地域公共交通確保維持改善事業 事業評価(案)

玉野市地域公共交通会議

生活交通確保維持改善計画(地域内フィーダー系統)の概要



別添2

玉野市の概要

- ・田井、中央(宇野・築港)、玉、玉原、和田、日比、荘内、八浜、山田、東児の10地区で構成
- ・人口 56,531人(令和2年度国勢調査)
- ・面積 103.58km²

交通会議の構成員

委員:玉野市、住民・利用者代表、岡山大学学術研究院、岡山大学大学院(学識経験者)、両備HD(株)、下津井電鉄(株)、(社)岡山県タクシー協会玉野支部、西日本旅客鉄道(株)岡山支社等
専門員:岡山県、中国運輸局岡山運輸支局、玉野警察署等

概要

<地域の課題>

- ・交通不便地域の解消
- ・非効率な公共交通体系の効率化
- ・各種交通機関の連携
- ・利用者ニーズへのきめ細かな対応
- ・新たな公共交通利用者の開拓
- ・観光における移動利便性の向上

1. 基本理念・基本方針

「玉野市総合計画」の将来像や基本理念を踏まえ、公共交通の課題や公共交通が果たすべき役割を踏まえ、本計画の基本理念、基本方針(地域公共交通のあるべき姿)を以下のよう

基本理念

人と人をつなぎ、これからのためのまちを支え続ける地域公共交通

～みんなで使って未来に繋ぎ合う～

基本方針

基本方針1：これからのまちづくりとくらしを支える持続可能な地域公共交通

人口減少やニューノーマル等の影響による利用者の減少や利用手段の多様化により、サービスの提供可能性が低下し、まちづくりとくらしを支える基盤として、持続可能な地域公共交通を構築する。

基本方針2：便利で誰でも使える・使いやすくなる地域公共交通

マイカーを使えない一部の利用者が多く、高齢者やマイカーを利用する市民や初めて車を持つ人を含む、誰もが便利に使える地域公共交通を提供する。また、単独移動サービスを提供するだけでなく、使いやすくなるようなサービスを提供する。

基本方針3：みんなで共に考え・使い・支える地域公共交通

行政、民間事業者、市民といった公共交通に関わる関係者が、みんなで共に公共交通のあり方について考え、生きの地づく基盤となる公共交通を支えることに積極的に参画し、一部の主体によって過度な負担とならないよう、みんなで支える体制を構築する。

基本理念	基本方針 (あるべき姿)	目標を達成するための事業
人と人をつなぎ、 これからのためのまち を支え続ける地域公共交通	基本方針1 これからのまちづくりとくらしを支える持続可能な地域公共交通	事業1：岡山市との間の広域路線の維持確保
		事業2：物流情報や住民の移動情報の元直しを踏まえた 西内路線の改善
		事業3：路線網の再編しを踏まえた乗車環境の整備
		事業4：持続可能な路線網に向けたシーバスと 石島駅前バス停の設置
		事業5：データの収集とそれを基づく計画・見直しサイクルの構築
		事業6：公共交通に係る周辺施設との連携
		事業7：拒いず確保に向けた対応の推進
	基本方針2 便利で誰でも使える・使いやすくなる地域公共交通	事業8：わかりやすい情報提供体制の確立
		事業9：公共交通サービスへのデジタル化の推進
		事業10：公共交通の利便性向上に向けた取組の推進
	基本方針3 みんなで共に考え・使い・支える地域公共交通	事業11：人と自然にやさしい車道の導入
		事業12：広報紙やSNS等による広報的な情報発信
		事業13：ターゲットを絞ったモビリティ・マネジメントの実施
		事業14：市が関与する公共交通サービスへの民間事業者の受け入れ

協議会の主な取り組み

- ・市民からの要望、シーバス・シータクの利用状況、地理的要素等を踏まえた最適な交通体系への大幅な見直しの実施
- ・広報紙や出前講座等による利用促進
- ・アンケート調査によるニーズ把握 等

協議会における検討

協議会開催状況

- ・R6.10.29 路線バス、シーバスルート等の見直し 等
- ・R6.11.21 タクシーの新病院への運行について 等
- ・R6.12.23 地域内フィーダー系統の事業評価 等
- ・R7. 2.21 地域内フィーダー系統に係る計画変更
- ・R7. 4.18 「子どもの日」の子どもバス運賃無料
- ・R7. 5.23 令和7年度地域間幹線系統補助の変更認定申請
- ・R7. 6.25 地域内フィーダー系統・地域間幹線系統に係る計画の作成 等
- ・R7. 8.21 迫川地区生活交通「ブンタク」運行計画変更 等

定量的な目標・効果

評価指標	現状値	目標値 (R7～8年度)
公共交通の年間利用者数	R5実績 乗合タクシー 32,373人/年	乗合タクシー 35,000人/年
市内の公共施設や病院への移動手段がなく不便を感じている市民の割合	6.5%(R4年度市民意識調査結果)	8.6%以下(玉野市地域公共交通計画で定めた目標に整合)

評価指標	現状値 (R5年度)	目標値 (R7～8年度)
外出する頻度が週1日以下の高齢者(65歳以上)の割合	13.1%(R4年度市民意識調査結果)	11.7%以下(玉野市地域公共交通計画で定めた目標に整合)
公共交通の収支率 うち、乗合タクシーの収支率	14.5%(R5年度実績) 12.2%(R5年度実績)	17.7%以上(玉野市地域公共交通計画で定めた目標に整合) 13.2%以上
市の移動手段確保に係る財政負担額 うち、乗合タクシーの財政負担額	76,990千円(R5年度実績) 37,514千円(R5年度実績)	60,000千円以内(玉野市地域公共交通計画で定めた目標に整合) 34,338千円以内

- ・既存の路線バス、コミュニティバスだけでは対応できなかった周辺部や高低差のある団地等の住民への移動手段を確保
- ・十分な運行便数の確保による様々な活動(通院、買い物、余暇活動等)への対応と外出機会の増加

昨年度の自己評価に対するフォローアップ

- ・シーバスやシータクの新規利用者確保に向け、複雑化する地域公共交通(シーバス・シータク)の利用方法について、わかりやすく丁寧に説明講座等で周知を図り、収支率の改善を目指した。

実施した利用促進策

- ・市広報誌で、シータクやシーバスを利用方法と併せて、それらを利用した市内史跡等への行き方を紹介することで、利用促進を図った。
- ・市内小学生を対象としたバス乗り方教室を開催。
(R6.10～R7.9実施:5回184人参加)

昨年度の運輸局二次評価に対するフォローアップ

- ・交通事業者と連携し、シーバスやシータクの収支率や外出頻度の向上が図られるよう、利用促進等の検討を行った。
- ・説明講座等を事業者とともに実施し、よりわかりやすく丁寧に説明を行い、公共交通全体の利用者数の改善に努めた。

地域住民の意見の反映

- ・サービスの利用状況や満足度を把握するため、利用者アンケートを実施。
- ・市民を対象に出前講座を実施し、利用方法などを案内するとともに改善要望等を把握した。
(R6.10～R7.9実施出前講座 4会場 約91人参加)

事業実施の適切性

- ・計画に位置付けられた事業は適切に実施されている。
- ・広報紙やホームページ、SNS、出前講座を通じた周知広報により、地域住民に対する利用促進が図られている。

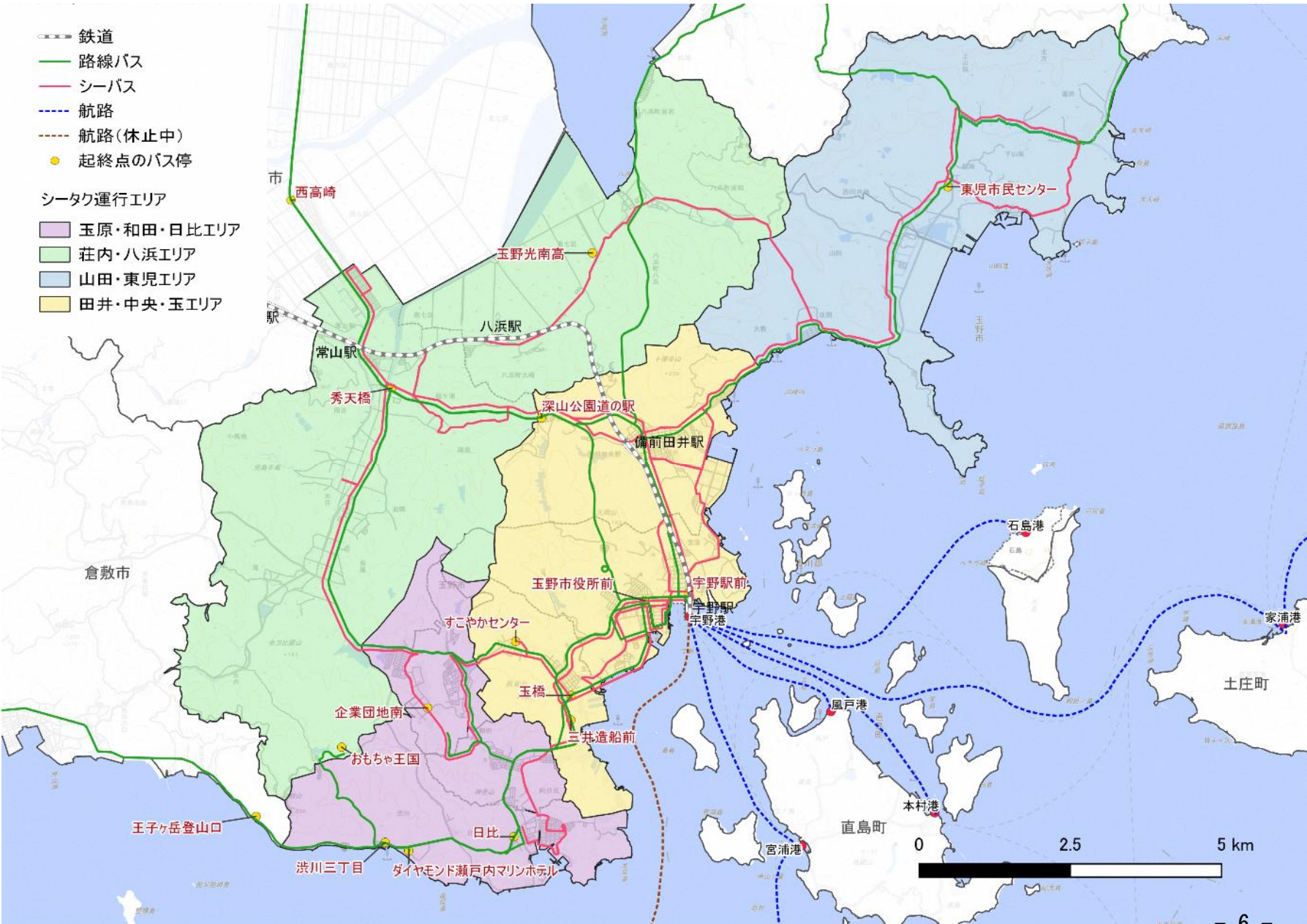
目標・効果達成状況

- ・乗合タクシー(シータク)の利用者数について、目標値35,000人／年に対して、33,653人／年であった。
シータクの利用者数については、昨年度と比較してほぼ横ばいであり、シーバス路線が充実していく中で利用者数を維持できているものの、利用者数全体では、目標達成に至っていない。
- ・市内の公共施設や病院への移動手段がなく不便を感じている市民の割合については、目標値8.6%以下に対して8.3%(令和6年度市民意識調査)であり、目標を達成した。
- ・外出する頻度が週1日以下の高齢者(65歳以上)の割合については、目標達成には至らなかったものの、目標値11.7%以下に対し11.8%(令和6年度市民意識調査)と、あと一步であった。
- ・収支率については、公共交通全体では15.9%と多少改善しているが、乗合タクシーのみでは12.4%とほぼ横ばいとなっており、どちらも目標達成には至っていない。
- ・財政負担額については、公共交通全体では76,659千円と多少改善しているが、乗合タクシーのみでは38,013千円と昨年度より増加しており、公共交通全体としては減っているものの、乗合タクシーが増加している。

事業の今後の改善点

- ・出前講座、各種アンケート等で得られた市民意見の掘り起こしを行い、利用方法のわかりにくさから利用していない方がいるという課題に対して、DXの活用等簡単にわかりやすく説明することで、利用者の増加につなげていく。
- ・利用者の直接の意見を反映させるため、出前講座やバス教室等を事業者とともにを行い、より利便性の高いダイヤ、ルートに改善し、利用者を増やすとともに収支率の改善にもつなげていく。

交通体系図 別紙



運行系統図 別紙

系統名 シータク(デマンド型乗合タクシー)

運行形態 区域デマンド型(4エリア)

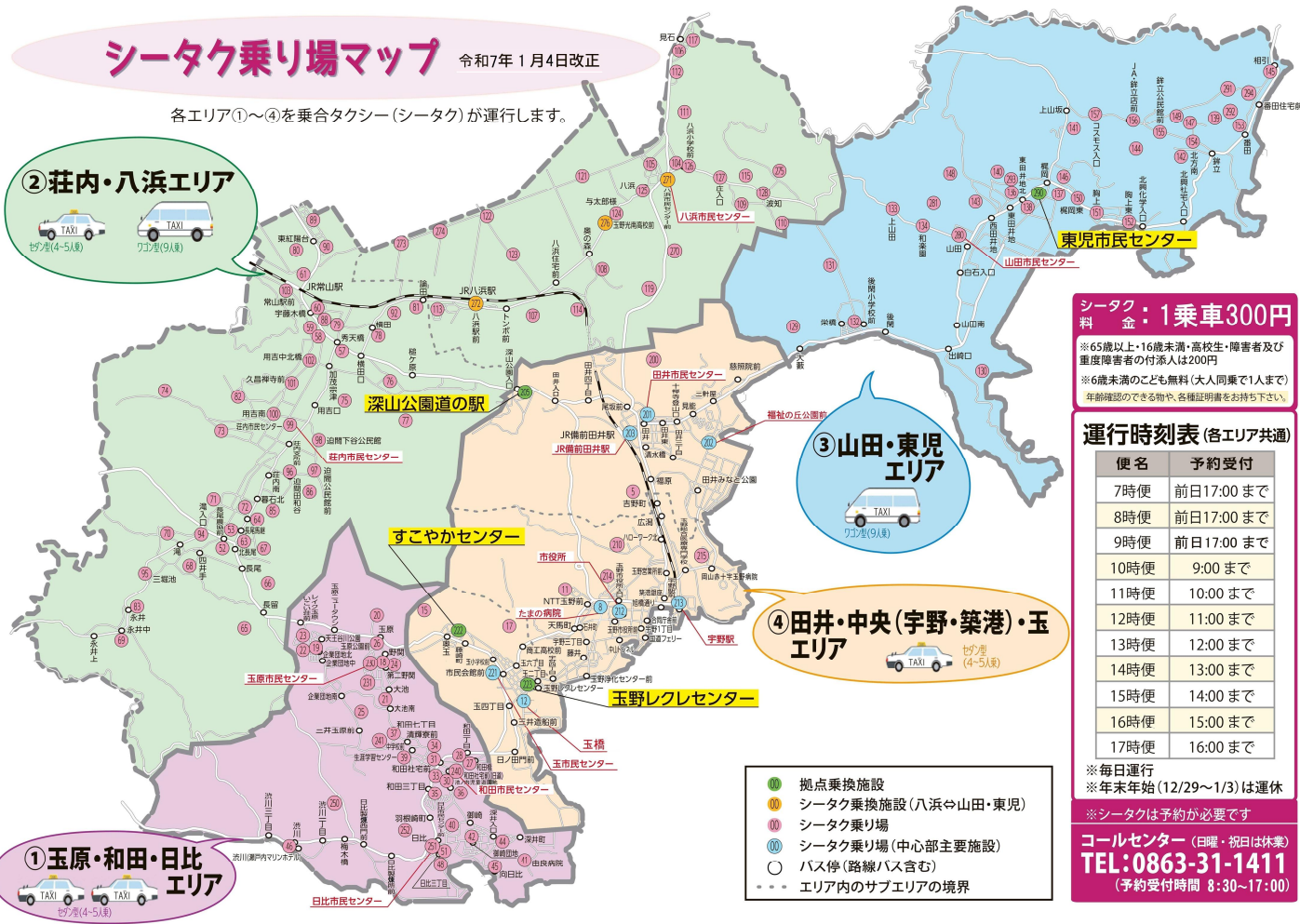
運行日・便数 毎日運行(12/29～1/3は運休日)・1日11便

運賃 300円(65歳以上、16歳未満、高校生、障がい者及び重度障がい者の付添人は200円)

シートアク乗り場マップ 令和7年1月4日改正

各エリア①～④を乗合タクシー(シートアク)が運行します。

② 荘内・八浜エリア



シートアク
料 金：1乗車300円

※65歳以上・16歳未満・高校生・障害者及び
重度障害者の付添人は200円
※6歳未満の子ども無料(大人同乗で1人まで)
年齢確認のできる物や、各種証明書をもちこ下さい。

運行時刻表(各エリア共通)

便名	予約受付
7時便	前日17:00まで
8時便	前日17:00まで
9時便	前日17:00まで
10時便	9:00まで
11時便	10:00まで
12時便	11:00まで
13時便	12:00まで
14時便	13:00まで
15時便	14:00まで
16時便	15:00まで
17時便	16:00まで

※毎日運行
※年末年始(12/29～1/3)は運休

※シートアクは予約が必要です

コールセンター(日曜・祝日は休業)
TEL:0863-31-1411
(予約受付時間 8:30～17:00)

- ① 拠点乗換施設
- ② シータク乗換施設(八浜⇄山田・東見)
- ③ シータク乗り場
- ④ シータク乗り場(中心部主要施設)
- バス停(路線バス含む)
- エリア内のサブエリアの境界